

日本細菌学会 平成30年第3回理事会議事録

- 日時：平成30年7月26日（木） 13:00～17:00
- 会場：東北大学東京分室（サピアタワービルディング 10 階）会議室 A
- 出席者：赤池孝章 理事長、大西 真、川原一芳、河村好章、菊池 賢、小松澤 均、高井伸二、寺尾 豊、中根明夫、長宗秀明、西川喜代孝、林 哲也、堀口安彦、松下 治、山口博之 各理事
川端重忠、西川禎一 両監事
- 欠席者：富田治芳、中川一路 理事

※五十音順 敬称略

I. 開会（理事長挨拶）

今回の理事会から、天候に左右されずアクセスできる東京駅に隣接するサピアタワー内の東北大学東京分室で行うことにした。経費も節約することができる。一部の理事がまだ到着していないので、報告事項などを入れ替えて議事を進めていくことにする。早速審議に入る。

II. 確認事項

前回第2回理事会、評議員会、会務総会の議事録について：以下赤池理事長より。すでにファイルをダウンロードして確認していることと思うが、本日の理事会審議終了までに修正などあれば知らせてほしい。その時点までに修正などの申し出がなければ、資料に綴じてあるそれぞれの議事録案を確定する。

III. 報告

1) 第91回総会終了報告（林 第91回総会長）：資料に基づき林理事より以下の報告があった。学会が無事完了したことに關して、改めてお礼を申し上げる。事前に配布した報告書について、ファイルに入っていなかったため、その部分は口頭で説明する。

総会に関わる通帳や領収書などを踏まえ監査を実施してもらい、適切に執行されていると認められた。いままで総会終了時の報告に会計監査の書類はなかったかと思うが、このような監査結果を正式な報告書類として今後残していくのが良いと思う。

収入の部：事前登録が少なかったため、さらに薬学会と日程が重なっていたので心配したが、当日参加が大変多く（正会員 148 名 1,776,000 円、非会員 156 名 2,496,000 円）、収入増に繋がった。補助金は、学会からの補助金、招聘費、シンポジウム補助費を合わせ 6,540,000 円。抄録集販売費は、345,000 円。その他(ICD 講習会開催費とミキサー費)は 343,200 円。展示会出展料は、例年より若干多く、1,495,800 円。共催費(ランチョン)は、1,584,000 円。広告費は、1,598,400 円。今回初めての試みとして、これまで使用していなかったプログラム集の裏を使って広告費を集めた(1,058,400 円)。寄付・助成金は、5,080,155 円。福岡観光コンベンションビューローから 300,000 円。Microbiol Genetics より 112,327 円、「MicrobeDB.jp」講習会は、144,828 円。合計は、27,250,555 円。

支出の部：会場費準備費は、徹底的に絞り、4,412,924 円(会場費は当初の予定より 100 万円程度削減)。会議当日費は、15,864,143 円。AE 企画を介してアルバイトを雇うと高く付くので、人員の半分程度は学生アルバイトを雇った(50 万円程度の節約)。土産・記念品も一切出さなかった。招聘費は、3,446,852 円。業務委託費は、696,600 円。事務処理費は、366,306 円。学会への補助金および繰越し金は、2,463,700 円。合計、27,250,555 円。

その他追加事項：参加者合計は、978 名だったが、日韓はキャンセルなどもあり、20 名。名誉会員は 9 名、若コロからの参加(会費無料)は 5 名。

日韓シンポジウムは、総会に組み入れてうまくいった。一方、韓国側の招聘者などへのケアが十分とはいえず(初日に懇親会を開催したが)、次回日本で開催する際には、世話人を総会長とは別に立てた方が良いと思う。

またこの日韓シンポジウム招聘者などのケア(総会長とは別に担当者を立てる)の件

については、日韓を担当する小松澤理事が、次期担当理事にしっかりと申し送りをし、次期理事会で審議することになった。またこの件については、実際に審議する場となる、国際関連学会委員会の委員への周知を事務局を通して行うことになった。

2) 第92回総会準備状況報告(山口 第92回総会長)：資料に基づき山口理事より以下の報告があった。

前回の理事会で、選抜 WS の選抜方法や副賞のあり方について、今回の理事会で審議することになっている。叩き台を作成してきたので、後で審議してほしい。まず日程だが、最終日 4/25(木)の午後のセッションはシンポジウムなので、実際には枠を 30 分程度拡大することになる。よって表彰式と ICD 講習会は、30 分程度繰り下がる予定である。全体の日程だが、一般演題発表者全員にオーラル発表の機会を与えたいので、パワーポイントを使用した 5 分程度のデジポス発表を行うことが既に決まっている。選抜 WS には 40 演題を企画調整委員会にて事前に選抜するが、その選考から漏れてしまった演題については、デジポスで再選考(敗者復活)し、選抜 WS(計 42 演題)に組み込む予定である。デジポスの司会と再選考は、北海道支部の会員に依頼する予定である。一方、敗者復活と選抜 WS からの選考方法については、この理事会で審議し、その審議結果に従いたい。先日の理事会でも赤池理事から指摘があったように、細菌学会から賞をだすことになるので、趣旨とその目的が明確である必要がある。

総会長が仲介に入っているシンポ・WS の中身がほぼ固まった(以下)。国際シンポジウム：人獣共通感染症関連 (コーディネーター：北海道大学 鈴木定彦)*人選中/演者旅費は北大 GI-Core で賄う。シンポジウム：応用微生物関連「窒素循環を支える細菌群の新知見～地球環境保全への寄与と展望」(コーディネーター：北海道大学 森川正章/東京農工大学 寺田昭彦); 微生物生態学会との共催シンポ「抗生物質耐性の新展開」(コーディネーター：産総研 鎌形洋一); 感染症学会との共催シンポ「薬剤耐性菌感染症に関する translational research」(コーディネーター：未定)・WS: レジオネラ関連 (コーディネーター：倉 文明 国立感染研、永井宏樹 岐阜大・医); ASM ジョイント WS-ASM Journal 受理までの体験記を踏まえて-(仮)(大楠 清文 東京医科歯科大学微生物学講座教授 佐藤 豊孝 札幌医科大学医学部微生物学講座)。

最終日 4/25(木)の昼セッションの企画を提案したい。「日本の微生物学研究は本当に大丈夫なのか(仮)」(トークショー)*以下例えば(どなたにもご了解は得ていません)、赤池理事長(細菌学会)、鎌形会長(微生物生態)、舘田理事長(感染症学会)。このような企画をランチの代わりに実施しても良いかと思う。

選抜 WS 優秀賞の趣旨・選抜方法・副賞のあり方については、以下の案を提案する。選抜 WS 賞の趣旨：選抜 WS から極めて優れた演題(最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名)を選抜・表彰し、日本細菌学会活動のさらなる発展に寄与する。選抜 WS 優秀賞の名称：「第 93 回日本細菌学会総会選抜 WS Superior Presentation Award 最優秀賞/優秀賞」。選抜方法：例年通りの基準でエントリーした演題から WS 演題を選抜(36 演題)、デジポス(WA 選抜から漏れた演題)からは 6 演題をピックアップ。副賞：最優秀賞 10 万円、優秀賞 2 万円(副賞は決して高額でなくても良い、といった意見も踏まえ叩き台として)。デジポスからの敗者復活と選抜 WS 評価基準案は、大学院の修士や博士後期課程プレゼン評価基準を参考に作成した。

選抜 WS の審査基準(手順を含む)と最終日のトークショー企画については、次回の理事会で再度検討することになった。

IV. 報告事項

1) 総務部会報告

①総務・渉外担当報告(河村理事)：資料に基づき以下の報告があった。平成 30 年 7 月 23 日現在の会員数は 2,278 名であり、昨年度(平成 29 年 2 月 28 日)(2,358 名)と比べると、会員数は 80 名の少なくなっており、長いスパンで見るとその減少に歯止めがかかっていない(平成 30 年の 1 月 30 日から見るとほぼ横ばい)。平成 60 年からの会員数の推移からも会員数の減少に歯止めがかかっていないことが分かり、現在会員数の増加が見込めない状況が続いている。赤池理事長から以下の追加発言があった。会員数の減少への対策として、審議事項の中で、会員制度の改変、として議論することにした。

②選挙関連担当報告（川原理事）：資料に基づき以下の報告があった。学会賞ならびに名誉会員選定委員会委員の、選出投票が完了している(7/20〆切)。8/16に事務局と一緒に委員が集まり開票作業を行い、決定することになっている(監事の立ち会いはない)。

2) 財務部会報告

① 会費・会計担当報告（河村理事）：資料に基づき以下の報告があった。1月から6月末までの執行状況は、予算通り順調に推移している。幾つか例年とは異なる箇所(支出の部)があるので、それらについて掻い摘んで説明する。広報関係費だが、例年 HP の管理費、メールマガジン配信費が計上されていたが、今年度は用語集 HP 版のアップに 40 万円程掛かったのが現在の執行額 683,302 円の内、その額が主たる執行額である。事務費の会議費だが、予算 10 万円に対して、執行額が 192,622 円となっている(193% の執行率)。昨年度までは、阪大の会議室を無料で使用させてもらっていたが、今年度からは例年通り、会議室を借りている。その分の会議費がそこに含まれている。堀口前理事長前の会議費を確認するとおおよそ執行額は 20 万円程であり、それほど大きな変動にはなっていない。その一方、印刷費は、執行率 43%(執行額 257,371 円/予算額 600,000 円)程度だが、会議用資料をペーパーレスにした効果がでている。赤池理事長より追加発言があった。順調に予算執行が進んでいるので、予定通り予算を執行していくことにする。

3) 広報部会報告

①広報・メディア分野担当報告（河村理事）：資料に基づき以下の報告があった(一部審議事項を含む)。今年度からの新しい取り組みとして、第 92 回総会(札幌)からそのポスターを関連学会に送り、広報活動をするようになった。広報委員会の中で確認をし、73 学会にポスター・チラシを発送済み。AE 企画に確認したところ、ポスター・チラシが若干余っているので、送付済み学会を除き、送付すべき学会があれば知らせて欲しい。用語委員会で取りまとめた Web 版の用語集を会員限定で閲覧できるように HP にアップした。関連学会のバナー広告を HP への掲載を開始した。掲載を希望する学会があれば知らせて欲しい。細菌学会の名前を沢山の場所見かけられるよう取り組みを進めていきたい。新たな取り組みになるが、日本細菌学会総会(第 92 回から)におけるプレスリリースについて提案したい。一般にも、細菌学会の活動内容の情報発信を行うためのものである。今回は北海道で開催されるので、札幌の地元のマスコミを中心に、それら支社に FAX でプレスリリースのチョイスした演題を送って、興味があれば、総会に取材に来てもらう、といったものである。同じような取り組みは、日本薬学会などで既に行われている。実際の演題の選定方法としては、まず第一には、総会長がトピックスを選定。第二に発表者が自己申告で応募(シンポはもちろんのこと WS や一般演題から)。選定演題が足りない場合も想定し、第 3 に委員会(シンポジウム企画調整委員会)でも選定を行う。演題申し込み時に、プレスリリースの希望を加味するかどうかについては審議が必要だが、今日の会議で了解が得られれば、その希望の有無も踏まえ 10 月から演題申し込みを行いたい。具体的には、プレスリリースの申請書に記載してもらい、それを元に審議し、プレスリリース演題とするかを判断する。申請書に基づく選定作業は、シンポジウム企画調整委員会で行う。申請書内容は、一般にも理解されるように平易な書き方を心がけてもらう。申請書には、実際の取材の際の対応者も記載するようになっている。申請書内容は選定はもちろんのこと、整体された申請書内容についても、精査し、申請者に修正を求められるようにする。プレスリリースのファイルが出来上がったら、マクコミ各社に送って、マクコミが興味あれば来てもらう、といった流れとなる。このような形にすると、プレスリリースした演題は、学会でオーソライズしていると思われるので、発表者側、プレス側にもこの演題は、学会が公認しているわけではないこと、各研究者が自己責任でやっている、といったことを念押しした上で、このような取り組みを行う予定である(マスコミ側が記事を書く際も、その原則を踏まえて書いてもらう)。また取材要領(プレスリリース演題以外の取材はしない)とそれに沿った同意書も作成した。広報委員会ではこれら内容全てについて、了解が得られている。

審議した結果、発表内容そのものの撮影公表については、プレスリリース対象者と相談しその指示に従うよう要項に追加した上で、第 92 回総会よりプレスリリースの取り組みを実施することになった。

②HP・SNS 分野担当報告（中川理事）：特になし。

4) 産官学連携部会報告:

①産官学連携分野担当報告（菊池理事）：以下 2 つについて報告があった。1. 合同企画のルール作りについて：様々な学会との合同企画については、産官学連携分野で交通整理をしたい。感染症学会の窓口は東北大学の川上教授(細菌学会会員でもある)なので、話をしたところ、来年度の細菌学会と感染症学会までにはルールは作れないが、その次の会からは、作製したルールに則り合同企画運営を実施する予定である。問題点が二つある。合同企画をする際に、どちらの学会が主体となるのか。そこを明確にする必要がある。これまでは、総会長と依頼者との個人的な関係の中でセッションを組んできたが、提案したほうが主導するなど、明文化していきたい。もう一つは、費用負担の点である。招待する場合には、セッションあたり非会員 1 名の旅費は賄う、2 名以上は総会長と要相談、となっている。招待された場合には、先方が費用を賄ってきたと思うが、このあたりのことも明文化されていない。どこまでを依頼して、どこまで賄えるのか、といった点に関してルールを決めたい。規約に載せなくても、文章(申し合わせ)にしておきたい。まだ委員会を開いていないが、委員が決まっているので、委員会を開催し案作り、次回の理事会に諮りたい。2. 学会に関しては、いろいろな形で合同企画がスムーズにできつつあるが、産官に関する情報が入ってこない。そこで合同感染症治療創薬促進検討委員会(感染症学会、化学療法学会、環境感染学会、薬学会、臨床微生物学会、日本獣医学会)に今年から細菌学会として参加することになった。感染症治療薬がなかなか開発されていないので、国をあげて(AMED などがスポンサーとなり)、新しい創薬シーズを取り上げるための方策を検討する場である。AMED が中心になって、創薬シーズを探るためのリサーチネットワークを立ち上げることになった。細菌学会もシーズの検討やその評価に積極的に関わって欲しいと言った要望があり、協力していくことで産官との連携を模索する。

5) 学術部会

① 学術支援・評価担当報告（長宗理事）：資料に以下の報告があった。第 91 回総会で一般演題 138 演題(学生発表)について 4 つのグループに分かれ選考要領に従い選考を行った結果、優秀発表賞受賞者を 13 演題選抜した。選考は分野の偏りがないように配慮しグループごとに 10%を目安に選抜を行った。選考結果は、学会ホームページ上にも掲載されている。来年の総会では、この優秀発表賞と別に二つの選定（一般演題から選抜 WS への選抜に漏れた演題についてのデジポス発表時における選抜 WS への再選抜と、選抜 WS における優秀賞選定）を行うので、それら選定基準については、次回の理事会に諮る予定である。

② 学術企画分野

1. シンポジウム等企画担当報告（長宗理事）：資料に基づき以下の報告があった。来年の 92 回の総会では、総会長企画として、選抜 WS が 3 日目に 3 会場でセットされている。現在それ以外のシンポジウム枠 12 枠(ただし実際には 3 日目の枠を WS にするため 11 枠となっている)、WS7 枠についてシンポジウム企画調整委員会にてそれぞれ企画の選定を進めている。当初は、前回の理事会においても報告したように、公募枠が例年より少ないと言ったこともあり(また総会長企画が増えたのも一因と考えられるが)、枠が 2 つとなってしまったが、公募要領に従い公募を行っている(7 月末で公募はメ切った)。現在、薬剤耐性関係とゲノム解析関係の応募が各 1 件あった。

審査の結果、枠を埋めることができないと判断した場合には、委員会企画(予備枠)から、その枠を埋めるようにしたい。シンポジウム企画調整委員会で決定した企画については、そのまま進めることも決まった。

2. バイオセーフティー担当報告（大西理事）：委員会では、病原体等安全取り扱い指針の改定作業を進めている。今月末(7 月末)を目処に各委員からセッションごとに改定案を集める予定である。今年度中に改定作業を終え、来年度には新版を発行する予定である。

3. ICD 制度協議会等担当報告（菊池理事）：以下の報告があった。6/14 に制度協議会が開催された。第 92 回総会の ICD 講習会は企画調整が完了済み。ICD 講習会からの補助だが、2019 年の前期までの分は今月末までに申請する必要がある。ICD 制度協

議会加盟団体は多数(30 団体程度)あるが、新たに日本病院診療医学会が協議会に加盟した。ICD の規則改定が行われる。更新する場合には、病院の安全対策に関わる活動実績というものを実際に求められるようになる(原案がだされ審議中)。実際に活動内容を証明するための実績が必要になる。麻疹が名古屋と沖縄でアウトブレイクが発生している。それに呼応して緊急の麻疹対策の ICD 特別講習会が 9/24(東京カンファレンスセンター品川大ホール 13:00~15:30)に開催される。

細菌学会会員に向けてこの麻疹対策特別 ICD 講習会のアナウンスを HP 上に掲載することになった。

③ 学術交流分野

1. 日本微生物学連盟／日本学術会議担当報告(川原理事)：資料に基づき以下の報告があった。以前の理事会で説明した H29.9/25 に開催された第 20 回日本微生物学連盟理事会(日本学術会議総合微生物科学分科会・IUMS 分科会・病原体学分科会合同会議)を確認のために資料として本理事会資料に載せた。今年の 4/20 に第 21 回理事会(日本学術会議総合微生物科学分科会・IUMS 分科会・病原体学分科会合同会議)が開催され幾つかの説明があった(以下)。新理事のメンバーの紹介。分科会の説明。新委員長の紹介。細菌学会との関係では、病原体学分科会の委員長に桑野先生(久留米大学)が選出された。微生物連盟の理事長の選出を選挙で行うということだったが(赤池理事長とも相談し対応を検討したが)、前理事長のウイルス学会の柳先生が無投票で選出された(候補者は一人だけ)。今まで通りの方針で運営していくとのこと。関連団体で一つ退会届(日本防菌防黴学会)が受理され、加盟団体は 23 団体となった。加盟団体は 1 団体ずつ自己紹介をすることになっているが、当日は感染症学会(館田先生)と寄生虫学会(北先生)の紹介がそれぞれ 15 分程度あった。今後、細菌学会も順番が回ってくると思うのが、赤池理事長も出席しているので、理事長から紹介することになる。2017 年日本微生物学連盟主催フォーラムは日本微生物生態学会が、「微生物: 変わり者たちの素顔」と題して行われた。2018 年のフォーラムは 2 回予定されているが、学会として積極的に取り組んでほしい、とのこと。具体的には、ウイルス学会にのっかるような形でも良いように思うが、理事会メンバーからの積極的な意見を吸い上げ、関わっていければと思っている。東京大学微生物科学イノベーション連携研究機構が立ち上がることになった(キックオフシンポジウムは 8/21)。笹川先生から「日本微生物学連盟賞」を創設したらどうかという提案があった。次回以降、具体的な検討が行われることになった。病原体分科会で、「我が国における微生物・病原体に関する教育リテラシー」という提言を策定中だが、農学部や工学部の先生からあまりにも病原微生物学に偏っているのではないかと、といった意見がでている(微生物学連盟の根本的な問題だが、医歯薬分野の先生方と農学部工学部の先生方の意見が食い違うところがままある)。次回は、9/14 あるいは 9/21 に開催される予定。

2. 日本医学会連合担当報告(菊池理事)：審議事項で説明。

3. 予防接種推進専門協議会担当報告(大西理事)：資料に基づき以下の説明があった。ワクチンに関して、臨床から基礎までの関係学会が集まって協議している場。実は 4 月以降、私の感染研での立場が変わり(副所長)、この協議会への参加が難しくなった。特に、「HPV ワクチン接種勧奨再開に向けての働きかけ」(厚労省への働きかけ)、については、立场上発言が難しくなった。富田理事も委員会メンバーなので、協議会への出席に関する役割分担について相談することにする。

6) 教育部会報告

①次世代教育・人材育成担当報告(松下理事)：資料に基づき以下の報告があった。次世代では二つの事業を行っている。一つ目は、細菌学若手コロッセウムへの支援、二つ目は無料出張公演。細菌学若手コロッセウムは、私も今年度開催する会の代表世話人の一人になっている。2018.8/23~8/25 に岡山県のカリヨンハウス牛窓研修センターで開催する予定。参加者から豪雨のために施設に被害が出たのではないかと、いった問い合わせがあったが、会場は被害を受けておらず(交通機関も)、会の開催には何ら影響はない。現時点では登録者が 17 名と少なく、参加者数に関して心配をしている。理事の先生方からも、周囲の若手へコロッセウムへの参加を促してほしい。細菌学会との関係性だが、第 92 回総会(札幌)では、冠シンポジウムを開催することが決まっている。また

若コロ(岡山)に参加した参加者は、第 92 回総会への参加が無料(参加費免除)となることも決まっている。優秀発表を冠シンポジウム(実際にはシンポジウムではなく WS)とする予定(この件についての広報については正式に決定された後当日の会でアナウンスする予定)。*総会 WS 枠へ冠シンポ(WS)は組み込み済み。出張公演に関しては、例年通り年間経費 15 万円の予算で野田先生に実施してもらっている。次回理事会で、具体的な内容については報告をする。

赤池理事長から豪雨災害や震災で被災した関係施設に対してお見舞いの挨拶文を送った旨、報告があった。

②教育資源発掘・保存担当(松下理事)：①次世代教育・人材育成担当報告参照。

7) 出版部会報告

① 学会誌担当報告(大西理事)：資料に基づき以下の報告があった。日本細菌学雑誌だが第 73 巻 2 号まで公開済み。2 号の総説は前々回の理事会で議題として上がり検討されたものである。3 号と 4 号が 8 月、11 月にそれぞれ公開を予定している。順調に編集作業が進んでいる。

② M I 誌担当報告(寺尾理事)：以下 3 点について報告があった。1. 刊行状況について)7 月号を 7/16 に刊行した。8 月号については、コンテンツを確定し、発行月にスケジュールどおり、刊行する予定である。ウイルス、免疫、細菌学と 3 つにジャンルが分かれているが、細菌学のジャンルが、掲載論文の過半数を占めている。2.インパクトファクター)2017 年のインパクトファクターは、1.335(前年度より低下*6/27 発表)。3. ワイリージャパンとの打ち合わせ)今後について 3 学会の代表者と出版担当で 8/27 に打ち合わせを行った。特集号などについて、話し合う予定だが、その結果については、次回理事会で報告をする。

③ 用語集担当報告(富田理事)：富田理事が欠席なので代理の河村理事より資料に基づき以下の報告があった。Web 版の用語集を、5/15 会員限定で HP 上にアップした(無料)。それに伴い旧印刷版の取り扱い、今後の更新等について、実際にはオリジナルのデータを持っているので、南山堂と打ち合わせをした。紙媒体の用語集は 12 月をもって販売を終了する(残については清算)。Web 版の修正については、南山堂が持っているデータを中西印刷が修正しアップしていく流れが決まった。今後は、年一回程度を目安にして、改定を行う予定(新しい情報を入れる)。今回、既に Web 版に菌名リストが公開されているが、その一部に関して修正(属名の変更)と追加(*Clostridioides* と *Acinetobacter pittii*)を行った。また *Acinetobacter pittii* のバイセーフティーレベル BSL1 の記載も追加。これら修正と追加は、用語委員会では承認済み。今回用語集が Web 版に変わったので、次回以降は、年に 1 回の改定を考えているが、改定の際、若干費用がかかる。それについては、承認をもらいたい(次年度以降予算計上してもらいたい)。中西印刷に問い合わせたところ、上記の菌名変更(20 件程度の更新)で、3~5 万円程度の費用がかかる。

8) 国際交流部会報告

①IUMS 等担当報告(中川理事)：特になし。

②日韓微生物等担当報告(小松澤理事)：特になし。林理事からの報告にもあったように次回日本での開催に際し、韓国側招聘者へのケアも含め次期理事会に引き継ぐようにする。これらのことを含め来年の総会の際に開催する国際関連部会で委員に周知する予定である。

9) 社会交流部会

①研究倫理・安全保障分野担当報告(赤池理事長)：特になし。

②利益相反担当報告(中根理事)：特になし。

10) その他：特になし。

V. 審議事項

1) 関連学会との連携(特に予算運用の是非)について：菊池理事から以下の説明があった。共同開催のシンポジウムに関しては(①産官学連携分野担当報告参照)、そもそも費用負担をどうするのか、現時点ではあいまいな点もあるので、明文化に向けて作業を進めたい。

審議した結果、他学会で開催する場合、他学会に招待された場合、招待した場合、学会員の有無、どちらの学会にも属していない講演者、先方の学会から講演者の旅費など要求された場合など、細菌学会としてどのように対応するのか検討し、明文化(ガイドライン)に向け作業を進めることになった。

2) 日本医学会総会の展示方法について(菊池理事)：資料に基づき以下の説明があった。医学会連合の件で、細菌学会が加盟している分科会で、医学会総会を毎年大々的に行われるが、2019年の医学会総会(名古屋国際会議場 2019.4/27～29)で、パネル形式の特別展示を実施する。その際、統一規格フォームだが、細菌学会の宣伝(参加)を希望するかどうか、案内があった(希望に応じてビデオも OK)。展示参加費用は無料。細菌学会はアピールが必要なので、ポスター展示を希望すると、回答した。ポスターを作らなければならないが、北里柴三郎からの歴史、どのように社会に貢献しているのか、などを含め作っていく予定である。

菊池理事が中心となり、事務局も協力しながら展示ポスターを作っていくことが決まった。またその際のポスター展示(掲示)は、会場に近い河村理事が担当することも決まった。

赤池理事長より以下の追加発言があった。いろいろなところで学会活動を展開していく。このような企画(できるだけ費用負担が発生しないもの)があれば、ぜひ紹介してもらいたい。

3) 会員制度の改変について：赤池理事長より資料に基づき以下の説明があった。第91回の総会の際、鹿児島大学の会員から、中学生を会員として参加させたい、との申し入れがあった(林総会長は無料で参加を許可した)。会員数も減少してきているので、初等教育の観点からも、特別枠の会員枠制度を導入しても良いかと思う。一つはジュニア会員(キッズ会員)、もう一つはシニア会員(リタイアされたような方*一般の方を対象)。またシニア会員に対しては、学会総会だけではなく、支部で独自に企画開催している(野田先生がされているような講演会や講習会に参加してもらい、その実績を踏まえ、支部に支援を行いたい。会員を維持(増加させる)するための仕組みを作っていく。その一環として考えてもらいたい。キッズ会員がこの細菌学の領域に興味を持続的に持ってくれば、将来会員数の維持増加に寄与すめと考えられる。細菌学の知識は、さほど敷居の高いものではない。そこで特別な会員制度の導入の可否について諮りたい。また導入にあたり作業部会を設けそこでたたき台を作成する予定である。日本学術会議でも教育を強化した方が良くと言った意見がでていたので、例えば学校(高校や中学の保健の先生)の先生を対象として再教育(感染症に関して知識がないと子供健康管理ができない)を行っていくのも良いと思う。会費は徴収しない。

審議した結果、そのような制度改革を行っていくことについて、異論はでなかった。その制度改革に関する作業部会メンバーの選定は、理事長に一任された。

4) 学会賞の応募要領、推薦・審査要領の改訂等について：赤池理事長より資料に基づき以下の説明があった。7月末をもって学会賞の推薦締め切りとした。推薦をいただいている状況ではあるが、まだ推薦数が少ない(ある賞については全く推薦がない)。

そのよう状況も踏まえ、学会賞該当者なしという年が、できるだけないようにすべく、審査のあり方や、推薦方法について、見直したい。これについても改めて作業部会を設置し、検討していくつもりである[部会は学会賞選定委員会(神谷選考委員長)とも連携しながら]。次回の理事会に部会メンバー含め改めて諮りたい。

5) 議事録作成要領の見直しについて：赤池理事長から以下の説明があった。議事録作成は、山口理事と高井理事にお願いしているが、かなりの負担になっていると思う。以前は、持ち回りで議事録を作成していた時もあったかと思う。今年度はこのままでいくとして、来年度からは若干ローテーションをかけて行いたい。ボイスレコーダーで録音しているので理事メンバーに手伝ってもらい(メモを取ってもらう、または一部テープおこしをってもらう)、その集計を議事録担当理事が行う、といったような流れにした

い。またそれに合わせ議事録作成要領も作成したい。会務総会の議事録を事務局早瀬氏が行っているが、委託業務範囲外なので、そのような依頼をしないようにする(次回札幌での会務総会は暫定的に庶務担当理事が行う)。

今年度はこれまでと同じように議事録を議事録担当理事が作成するが、来年度からは理事の間でローテーションをかけて行くことが決まった。そのために議事録作成要領を作る。

6) **今後の広報活動と産官学連携の具体的な進め方について:** ①産官学連携分野担当報告を参照。

7) **日中細菌学交流専門委員会(案)の設置について:** 赤池理事長から資料に基づき以下の説明があった。群馬大学の池名誉教授から日中細菌学交流専門委員会の設立についての提案があった。

提案内容: 薬剤感受性ブレイクポイントの標準化に向けた取り組みについての提案である。現在のブレイクポイントは、例えばアメリカは、アメリカの基準が、ヨーロッパはヨーロッパの基準、日本は化学療法学会、といったように世界的な統一基準ない。一方、アジアでは、中国が国策として積極的に標準化を進めようとしている。もし中国でそのような形で標準化がまとめられると、アジア全体がそれに迎合するようになると予想される。少なくとも細菌学会としてそのような動きに対して、何らかの検討をしているほうが良い。そこで細菌学会の中に、日中細菌学交流専門委員会の設立を提案する。提案者はその中で中国側からの情報収集にあたりたい。

提案内容を確認した上で、細菌学会としてどのようにするか、次回の理事会で再度審議することが決まった。

8) **エー・イー企画との複数年契約について:** 赤池理事長より資料に基づき以下の説明があった。

審議の結果、第92回総会(札幌)の様子を踏まえ、複数年契約について審議し、決定することになった。

9) **その他:** 特になし。

VI. その他

平成30年第4回理事会について:

日時=2018年12月18日(火)13時~17時

会場=東北大学東京分室(サピアタワービルディング10階)会議室A

VII. 閉会